

じゅげつかん こけいさんしょう  
**下離宮 寿月観の障壁画「虎溪三笑」** 



虎溪三笑図 岸駒 (京都事務所保存のものを撮影)

下離宮 寿月観の一の間は、後水尾上皇がおいでになった時の御居間で、畳3畳を敷いて一段高くなった所が御座所になります。ここでご休息になり、ここから畦道を通り、棚田を御覧になりながら上離宮へお越しになり、ご清遊されました。現在の寿月観は文政7年(1824年)光格上皇時代に旧規のまま再建されたものです。

一の間には、江戸後期の画家・<sup>が ん く</sup>岸駒の作と伝えられる「<sup>こけいさんしょう</sup>虎溪三笑」の襖絵があります。(襖絵は昭和25年に模写のものに入れ替え、現品は別に保存しております。)

襖絵の題材となった<sup>ろざん</sup>虎溪三笑とは、中国の廬山にある<sup>とうりんじ</sup>東林寺に隠棲していた<sup>えおん</sup>慧遠という高僧が、寺の下にある谷川「<sup>とうえんめい</sup>虎溪」をけって渡らないと誓いをたてていたにもかかわらず、友人の<sup>りくしゅうせい</sup>陶淵明と陸修静を送る道すがら話に夢中になってしまい、気付くと虎溪を通り過ぎており、三人で大笑いしたという中国の故事で、中国・日本の画題として好まれました。

# — 御所・離宮 —

とうえんめい

## 陶淵明を題材とした障壁画などについて



清凉殿「漢詩本文の意」 画：土佐光貞

(参観経路からは見えにくい位置にあります)



御所・離宮には中国の有名な詩人である陶淵明(365—427)にまつわる作品がいくつかあります。陶淵明は、六朝時代の人で、官を辞して隠遁し、田園生活を送りながら多くの詩を残したことから田園詩人と称された人物です。陶淵明の隠逸の士としての生き方や、彼の詠んだ詩は人々をひきつけたため、絵画の題材としてよく用いられました。

左の写真は絹貼りの襖絵で清凉殿母屋にあります。寛政度御造営時(寛政2年<1790>)に、土佐光貞が陶淵明の詩を題材として画いたもので、嘉永7年(1854)の火災では焼失を免れ、安政度御造営時に繕われて使用され現在に伝わっています。

襖に貼られた色紙の句は「采菊東籬下(菊を采る東籬の下) 悠然望南山(悠然として南山を望む)」です。陶淵明の詩の中で大変有名なものの一節で、ここには陶淵明が家の東の垣根の下で咲いている菊を採って、ゆったりと南の山(廬山)を見ている場面が画かれています(「望」の字は「見」とされることが多いですが、「望」とする本文も古来存在しました)。この絵を担当した土佐光貞は、土佐派の別家(分家)を創設した人物で、大嘗会に使用する悠紀主基屏風を画き、寛政度内裏では清凉殿の障壁画を担当しました。

下段の写真は、御常御殿の東御縁座敷にある「陶淵明帰去来」という画題の杉戸絵です。陶淵明が役人を辞めて田舎

へ帰る心境を述べた詩「帰去来辞」を題材としたもので、画面の右側に故郷に戻ってきた陶淵明、左側に陶淵明を待ち受ける妻や子どもが画かれています。この杉戸絵は、森派の森寛齋が担当しました。寛齋は、前述の如雲社に所属し、京都府画学校の教授を務めたり、皇室技芸員となって京都画壇の興隆や門人の育成に努めた人物です。



御常御殿「陶淵明帰去来」 画：森寛齋







修学院離宮(下離宮)寿月観一の間「虎溪三笑」画:岸駒  
こけいさんしやう がんく  
 (御殿内の物は模写。写真は収蔵庫で保管している原品)

鑑

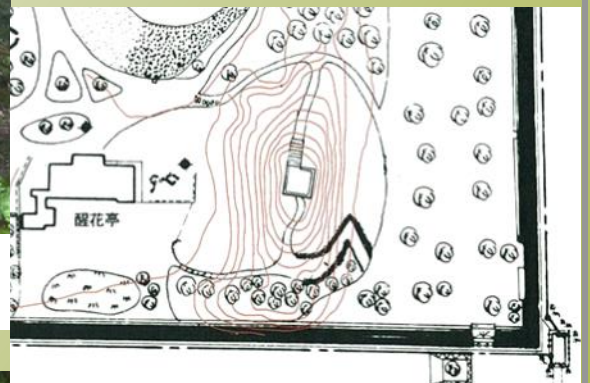
陶淵明は栞其の二で紹介した修学院離宮・下離宮の寿月観の一の間にある襖絵「虎溪三笑」にも登場します。虎溪三笑は、中国の『廬山記』に記される故事で、東洋画の画題として用いられます。この障壁画では、陶淵明が慧遠えおんという高僧りくしゆうせいと陸修静(5世紀頃活躍した道士)と話をしている場面が画かれています。

障壁画以外にも、陶淵明に関するものがあります。それは、仙洞御所の庭園の東南隅にある悠然台です。現在は、階段及び建物の基礎部分しか残っていませんが、小高い丘になっており、悠然台からは遠くまで見渡せたことが想像できます(参考:下記図)。悠然台は先ほど掲げた詩の「悠然望(見)南山」から名付けられたとされています。江戸時代に選ばれた仙洞十景の一つに「悠然台の月」があることから、この辺りからは綺麗な景色が楽しめたものと思われます。



苑路より悠然台へと続く階段を望む

鑑



等高線を用いた図(等高線:色線50cm間隔)



悠然台(近景)



悠然台が画かれる絵図(京都事務所蔵)

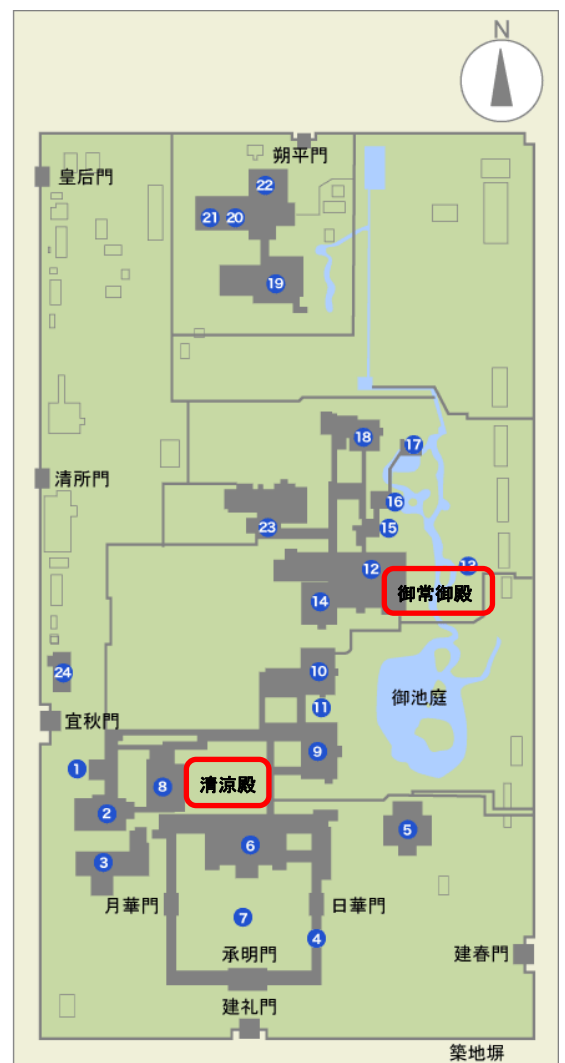
# 修学院離宮 下離宮案内図



下離宮

- ① 御輿寄
- ② 寿月観

## 京都御所案内図



## 京都仙洞御所・京都大宮御所案内図



- ① 京都大宮御所御車寄
- ② 京都大宮御所御常御殿南庭
- ③ 御庭口
- ④ 北池の舟着
- ⑤ 阿古瀬淵と六枚橋
- ⑥ 紀氏遺蹟の石碑
- ⑦ 土橋
- ⑧ 石橋
- ⑨ 庭滝
- ⑩ 紅葉橋
- ⑪ 紅葉山
- ⑫ 蘇鉄山
- ⑬ 雄滝
- ⑭ 土佐橋
- ⑮ ハツ橋
- ⑯ 中島
- ⑰ 醒花亭
- ⑱ 柿本社
- ⑲ 洲浜
- ⑳ 又新亭の外腰掛
- ㉑ 又新亭

- ① 御車寄
- ② 諸大夫の間
- ③ 新御車寄
- ④ 回廊
- ⑤ 春興殿
- ⑥ 紫宸殿
- ⑦ 南庭
- ⑧ 清涼殿
- ⑨ 小御所
- ⑩ 御学問所
- ⑪ 蹴鞠の庭
- ⑫ 御常御殿
- ⑬ 御内庭
- ⑭ 御三間
- ⑮ 迎春
- ⑯ 御学問所
- ⑰ 聴雪
- ⑱ 御花御殿
- ⑲ 皇后宮常御殿
- ㉑ 若宮御殿
- ㉒ 姫宮御殿
- ㉓ 飛香舎
- ㉔ 参内殿
- ㉕ 参観者休所

**観**マークは、参観でご覧になれます。申込み方法は、 <http://sankan.kunaicho.go.jp/> をご覧ください。

**通**マークは、申込不要の京都御所通年公開でご覧になれます。

詳細は、 <http://www.kunaicho.go.jp/info/kyototsunen-sks-sankan.html> をご覧ください。

これまでの「《京都》御所と離宮の葉」については、宮内庁ホームページの[こちら](#)からご覧ください。

<問い合わせ先>

〒602-8611 京都市上京区京都御苑3 宮内庁京都事務所  
 代表電話：075-211-1211 参観係直通電話：075-211-1215